

被災から4年、地域と共に歩む未来への挑戦・前進

～JAいしのまきと管内2法人の取組み～

調査研究部 震災復興調査班

目次

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 1. はじめに | 4. JR仙石線の全線開通と観光振興への期待 |
| 2. 「挑戦・前進の年」と位置付けるJAいしのまき | 5. おわりに |
| 3. 被災から4年、管内2法人の取組み | |

1. はじめに

今年5月30日に、宮城県仙台市と石巻市を結ぶJR仙石線が4年2か月ぶりに全線開通しました¹。JAいしのまき管内である石巻市、東松島市、女川町の2市1町では、仙石線が全線開通したことにより、仙台市とのアクセスが大幅に改善し、地域の復旧・復興の加速や観光客の増加が期待されています。

東日本大震災により甚大な被害を受けたJA管内の被災状況²や農業の復旧・復興への取組みについては、既に本誌132号（2014年4月）、135号（2014年10月）を通じて紹介していますが、JAいしのまきでは、今年、新たに第5次中期経営計画（後述）を策定し、震災からの農業・農地の全面復旧を目指して取組みを開始しました。また、管内の2つの農業生産法人（東松島市のサンエイトとアグリードなるせ）も地域の農業復興に向けて着実に取組みを続けています。

本稿では震災から4年5か月近くが経過した同地区の復旧・復興の現状について、JAいしのまき及び管内2農業生産法人の取組みを中心に、JR仙石線全線開通にともなう地域の観光振興への期待なども交え紹介します。



JAいしのまき管内とJR仙石線路線

1 今回、不通であった高城町（松島町）－陸前小野（東松島市）の10.5km区間（5駅）が再開した。同時に仙石東北ライン（仙台－塩釜間は東北本線を走行）も新たに開業し、仙台－石巻間の所要時間が以前より約10分間短縮された。また本年3月にはJR石巻線も全線開通し、石巻－女川間も鉄道の運行が再開された。

2 平成27年7月31日現在、東日本大震災による死者（関連死も含む）・行方不明者は、石巻市3,741名、東松島市1,134名、女川町849名となっている（各自治体ウェブサイト等より）。JA管内の2市1町だけで、震災による宮城県全体の死者・行方不明者の約5割を占める。

2. 「挑戦・前進の年」と位置付ける J A いしのまき

(1) 震災からの復旧・復興状況

J A いしのまき（以下、J A）は、東日本大震災で J A 管内 1 万 2, 000ha の水田のうち、約 3 分の 1 にあたる 3, 800ha が被災（浸水被害）した。今年度中に 150ha の水田が新たに復旧し、今年度末には水田の復旧率は約 85% となる。

大震災により沿岸部では約 20ha の園芸施設も流失した。現在、被害が大きかった沿岸部では、新たな施設園芸団地（^{へびた}蛇田、^{すえ}須江地区）の建設がすべて完了した。J A 管内で見ても、園芸関係施設はほぼ震災前の規模に復旧し、野菜、花き類などの生産面積は震災前とほぼ同水準にまで回復した。しかし、園芸施設は再開して日が浅いため、生産量は被災前には及んでいない。J A では、地域の生産の柱である米の販売価格が低迷していることもあり、今後は園芸振興にも力を入れ、農業者の所得増加を目指す。

(2) 震災復興をメインとした第 5 次中期経営計画がスタート

松川孝行組合長は 6 月 27 日に開催された第 14 回通常総代会の中で、今年度の方針について次のように述べた。「震災から 5 年目の節目となる今年度を、活力のある地域農業復活への『挑戦・前進の年』と位置付け、第 5 次中期経営計画³を着実に実践し、将来を見据えた農業復興と持続可能な農業の実現をめざし、“人と人の絆・協同の絆”を大切に、健康で安心して暮らせる豊かな地域社会を築く」。



J A いしのまき 松川孝行組合長

震災からの復興をメインとした第 5 次中期経営計画が今年度からスタートした（平成 29 年度までの 3 年間）。松川組合長は「この厳しい時代（低米価等）に立ち向かっていくために、これからはチャレンジの精神だけでなく、アドベンチャーの精神を培っていかねばならない」と語り、J A のトップとして職員をいかに動かすかだけでなく、今後の環境変化に適応できる、志の大きい有言実行タイプの職員を育てていきたいという。

「今問われているのは、自分たちが持っているものを次の世代に残すことだ。震災を乗り越えたときの気持ちを忘れず、困難に立ち向かっていってほしい」と J A 役職員に、一層の奮起を促す。

(3) 設立 1 年を経過した農業法人会の動向

本誌 135 号（2014 年 10 月）でも紹介したように、J A では農業生産法人との連携を図るため、全国でも珍しい、東北では初めてとなる J A 主導の「J A いしのまき農業法人会」を昨年 5 月に設立した。設立総会后、これまで 3 回の経営研修会を開催した。この 3 月に行

3 J A の「第 5 次中期経営計画」には経営方針として、①農業復興と持続可能な農業の実現、②健康で安心して暮らせる豊かな地域のくらしの支援、③健全な事業経営を通して信頼され必要とされる J A、④次代へつなぐ協同活動を支え環境変化に順応できる人材の育成、の 4 点が示されている（第 14 回 J A 総代会資料より）。

われた研修会では、新たに設立された法人の参加も多かったので、「企業統治のためのルールづくり」というテーマで講演が行われた。

41法人でスタートした法人会の会員数は、この1年間で新たに6法人増え、現在47法人となった。法人の経営形態は資金対応などから株式会社である法人が多く、生産品目は米と園芸（野菜）の複合経営が大半である。今年度に入り、1人の新規就農者が法人に入り研修を行っている。

(4) 市民向け体験農園の開始

JAでは、次世代対策として行っている食農体験学習「アグリスクール」の他に、今年度から試験的に市民向けに体験農園を開設する。山崎和明営農販売部長は「これまでの農業体験は、地域外の消費者を対象として行ってきた。しかし、地域の人も農業に接する環境が少なくなっていることもあり、地域の人たちが農業に参加できる環境をつくる必要があると考えようになった」と設立に至った経緯を説明する。また「この体験農園が、将来、定年した人やUターン、Iターンで石巻に来た人たちが農業を始めるきっかけとなり、ゆくゆくは直売所へ出荷してくれるようになってくれれば嬉しい」と、新たな生産者の掘り起こしにも活用したいと語る。

3. 被災から4年、管内2法人の取組み

本章では、本誌132号、135号で紹介したJA管内の2つの農業生産法人（サンエイトとア

グリードなるせ）のその後の取組みを紹介する。

(1) サンエイト～天皇皇后両陛下がイチゴ栽培を視察～

株式会社サンエイト⁴（東松島市牛網^{うしあみ}地区）は米・大豆の栽培に特化した法人だったが、冬場の雇用対策としてイチゴ栽培⁵を開始して今年で3年目を迎える。9月には定植の準備に入る。このイチゴ栽培の現場を、今年3月14日、国連防災世界会議⁶出席などのため宮城県を訪問されていた天皇皇后両陛下が視察された。



イチゴを摘み取る天皇皇后両陛下
（写真提供＝河北新報社）

4 1991年に設立された「牛網・浜市地区水稲組合」が母体となり、2007年に法人化。構成農家8人の平均年齢は60歳。経営面積105ha。内訳は水稲60ha、大豆39ha、枝豆用大豆1.6ha、イチゴ30a、その他4ha。

5 宮城県のオリジナルブランド「もういっこ」を栽培している。大果で日持ちが良く作りやすいという。

6 第3回国連防災世界会議（3月14日～18日）、仙台市で開催。国連防災世界会議は、国際的な防災戦略について議論する国連主催の会議であり、第1回、第2回ともに日本で開催された（1994年：横浜、2005年：神戸）（国連防災会議ウェブサイトより）。



サンエイト・千葉久馬代表

サンエイトの千葉久馬代表は「本当に緊張したが、大変光栄なことだった。ハウスには私が先導し、地域の概況や震災の被害状況をご説明申し上げた。たまたま大粒のイチゴを入れる黒い化粧箱を用意しており、両陛下が自ら摘み取られたイチゴは、侍従がその箱に入れて持ち帰られた。視察は15分ほどだったが、摘み取った皇后さまは喜んでおられた。陛下からは『従業員はご無事でしたか』とのお言葉をいただいた」と、当時を振り返る。

冬場のイチゴ栽培は、常時10名のパートと社員1名で担う。パートは被災した地域住民を採用し、摘み取りからパック詰めまですべてをこなしている。収穫は11月半ばから始まり5月いっぱいまで続く。昨年度は「奥松島いちご」の商品名でJAに出荷し、主に仙台市内のスーパーで販売された。そのほか、JAの農産物直売所「菜っちゃん市場」にも出品した。

千葉代表は「避難している地域住民が被災したこの場所に戻るといえることはないだろうが、サンエイトに協力したいという地域住民には、草刈りやイチゴ栽培に協力してもらっ

ている」と語り、今後も地域住民の協力を得ながら営農に取り組んでいくこととしている。

サンエイトでは、昨年から社会福祉法人施設利用者及びその家族をイチゴ狩り体験に招待している。千葉代表は「地域貢献活動をするのも、地域住民とともに歩む農業生産法人の使命と思っている」と語る。

(2) アグリードなるせ～地域の継承者を育てる、それが食育活動の原点～

有限会社アグリードなるせ⁷（東松島市野蒜^{びる}地区）では、被災住民と一体となり、地域再生に向けた多彩な農業法人経営を展開する。7月30日には、精米と小麦粉の製粉を兼ね備えた新たな農産加工場⁸が完成した。この加工場の完成により、地域で生産から集荷、保管、加工、販売まで行う6次産業化が実現した。現在、倉庫（農産物集荷冷蔵保管施設）を新たに建設しており、この倉庫の完成によってアグリードなるせの施設整備は全て完了する。

安部社長は、今、地域貢献活動として、野



完成した製粉工場

7 1990年に設立された「中下農業生産組合」が母体となり、2006年2月に法人化。経営面積は100ha、土地利用は2年3作を基本とする。水稲30ha、麦類37ha、大豆40ha、野菜10ha、トウモロコシ1haなど。

8 建坪は約100坪（318㎡）。施設の名称は「NOBICO（のびこ）」。名称の由来は、のびる（野蒜）+こな（粉）を掛け合わせたもの。この製粉工場では地域の人を中心に新たに9名を雇用した（内訳は、正社員3名、パート社員6名）。



アグリードなるせ 安部俊郎社長

蒜小学校の子どもたちに対する食育活動に力を入れている。この活動の特徴は、農産物の生産だけでなく、販売への取組みにも力を入れていることだ。

子どもたちと共に、30aの田んぼで、農業機械、除草剤などに頼らない米作りに取り組んでいる。土をおこす作業は昔ながらの農法である馬耕⁹で行う。その他に田んぼの生き物観察¹⁰なども行っている。収穫したお米は、希望者のみだが、子どもたちがスーパーの店頭に出るまで、販売まで行くことを計画している。子どもたちが販売に携わることについて、安部社長は「子どものころから人前に出てアピールすることは、子どもの成長にとって大きい」と語る。今後は、米袋のパッケージも子どもたちにデザインしてもらう予定だ。

安部社長は「食育活動の原動力は、とにかく地域を継承していく人を育てるということだ。子どもたちは地域の宝物。子どもたちには、一人でも多く、この地域に残って地域を守ってってもらいたい。アグリードなるせ

を設立したのも、地域の子どもたちが将来就職できる場になるようにという思いからだ」という。

アグリードなるせのある野蒜地区では仙石線が全線開通したことにより、野蒜駅¹¹が再開した。駅周辺はまだ整備中であるが、2年後には本格的な高台移転が始まる。そこには住宅地だけでなく、小学校の新校舎も完成し、地域の拠点となる。今後の地域づくりについて「東日本大震災では旧野蒜村にあった5つの行政区のうち3つが崩壊した。地域の復興のためには、被害が比較的少なかったのびる多面的機能自治会¹²（旧中下行政区）が野蒜の中心となって、昔のような地域の活気を取り戻していきたい」と安部社長は語る。

4. JR仙石線の全線開通と観光振興への期待

冒頭で触れたように仙台市と県内第2の都市、石巻市を結ぶJR仙石線が、5月30日に4年2か月ぶりに全線開通した。津波で被災した沿線住民にとって、交通アクセスの改善は待望久しい出来事だった。

開通当日、石巻駅では開通記念式典のほか、駅に近い商店街で海産物も含め地元の特産品を販売する「物産展」が開催され、多くの観光客で賑わった。

仙石線の全面開通によって、通学・通勤の面で便利になっただけでなく、これまで仙台まで観光できていた人たちが、鉄道で石巻までこられるようになった。石巻市産業部観

9 馬に犁を引かせて田んぼの土を耕すこと。昭和30年代から40年代に小型耕耘機やトラクターが普及するまで、全国各地でも馬や牛の力を活用して田畑を起こしていた。

10 小説家のC. W. ニコル氏が主催するアフンの森財団の「森の学校プログラム」と連携して行っている。

11 野蒜駅は、仙石線の再開にともない以前の場所から内陸の高台に約500m移転した。

12 昨年4月に発足し、安部社長は自治会の副会長を務める。新たな自治会は、従来の行政区の役割りの他、地域で行う草刈り、清掃活動等、農業・農村の持つ多面的機能を維持する活動に対して、農林水産省の多面的機能支払交付金が受けられるような組織ともなっている。

光課の石森秀利課長補佐は「仙石線の全線開通は、観光面から考えて大きい。今後は、観光客の誘致が期待できる」と、担当者として感慨深げに語る。

しかし、仙石線の開通により地域が全て震災に前に戻ったかといえまだそうではない。観光施設は再建中であり、観光客はまだ戻っていない。それだけ、東日本大震災による石巻地域の被害は大きい。石森課長補佐は「復興なくして、本当の意味での観光振興にはつながらない」と震災からの復興がまだまだ途上であることを強調する。

石巻市では、仙石線の開通と連動して6月、7月にイベントを開催した。また、7月31日、8月1日の両日、川村孫兵衛重吉翁¹³への報徳感謝、東日本大震災で犠牲になった多くの方々への鎮魂、石巻の復興への希望を込めて「第92回石巻川開き祭り」を盛大に開催した。8月には全国屈指の水揚げ量を誇る石巻漁港の新しい魚市場が完成する。石巻市では、仙石線全線再開と関連施設の再開に合わせて、今後もイベントの開催を通して市の魅力を積極的にアピールしていきたい考えだ。

東松島市¹⁴では、仙石線開通当日、野蒜駅前の特設会場と野蒜市民センター（旧野蒜小学校）で記念式典を開催し、特産品の販売などを行った¹⁵。

現在、野蒜駅は再開したが、復興工事の途中であり駅舎以外の施設はない。また、駅近隣の観光地である奥松島の海水浴場は今年、復旧工事を優先したため開設を見送った。このような状況なので仙石線の全線開通が即、

観光客の増加につながっているわけではない。だが、同市産業部商工観光課の永野富美子班長は「今後地域で様々なイベントが行われる。仙石線が全線開通したので、多くの皆様にいらしていただきたい」と観光客の増加に期待を寄せる。

今、東松島市では観光振興だけでなく、農業生産現場等とも連携しながら地域の“食の魅力”を再発見する活動にも力を入れている。この活動のきっかけについて永野班長は「震災前、私は実家が農家でもあるので、地域の米、野菜、そして近くの海で獲れる海苔、牡蠣なども当たり前のように食べていた。しかし、震災して、しばらくの間、これらのもの



野蒜市民センター広場でのJR仙石線開通イベントの様子（写真提供：東松島市）

13 江戸時代に伊達政宗の命を受け、北上川の治水工事や新田開発を指揮し、今日の石巻の礎を築いた。

14 東松島市には仙石線の駅が8駅ある。今回の全面開通で、野蒜、東名、陸前大塚の3駅が新たに再開した。

15 のびる多面的機能自治会では、当日、ケーキなどの小麦粉加工食品や野蒜納豆などを出品した。



復旧した仙石線

を買う立場になったら、地域で生産されているものが、本当に美味しかったと初めて気付いた。これは避難生活を送った皆さんも感じたはず」と語る。こうした気づきを地域住民向けに広報誌等で発信することで、東松島市は美味しいものがたくさん獲れる魅力のあるところだということ、多くの人にPRし、ご当地愛を高めてもらいたいと考えている。

また、地域にある農業生産法人との関係については、「サンエイトもアグリードなるせも市観光物産協会の会員として、震災ボランティアなどの受け入れなどでいろいろ協力いただいた。今後とも協力関係を維持していきたい」と語る。

こうした東松島市での復興の取組みで大きな力になっているのが、震災ボランティアとして東松島市を応援してくれた多くの全国の人たちとの交流である。東松島市役所に職員を派遣し、応援してくれている自治体もある。また、ボランティアの中には、活動終了後もそのまま東松島に住み着いて地域の復興のために頑張っている人もいる。永野班長は「応援していただいた方々に、復興して元気な姿を見せたい」と今後のさらなる復興に向けて力を込める。

5. おわりに

アグリードなるせの安部社長は、仙石線の再開について「電車の音が励みになっている。戻ってきた、という感じだ」と、地域の復旧・復興がまた一つ進んだことに喜びをかみしめていました。

仙石線全線開通の波及効果は単に観光振興だけにとどまりません。観光を通して、地域の食がクローズアップされることになれば、地域の食の再発見や新たな食品加工の開発にもつながっていく可能性があります。さらに、これらと地域の農業・水産業との間に新たな結びつきが生まれれば、地域で6次産業化が加速されていくことも期待できるでしょう。

(謝辞)

大変お忙しいところ、聞き取り調査等にご協力いただきました、JAいしのまき・松川孝行組合長ほか職員の皆様、サンエイト千葉久馬代表、アグリードなるせ安部俊郎社長、石巻市石森秀利課長補佐及び東松島市永野富美子班長にこの場を借りてお礼を申し上げます。また、写真をご提供していただきました東松島市と河北新報社にもあわせてお礼を申し上げます。

*本レポートは、2015年4月21・22日、7月2・3日に行った現地調査にもとづき、とりまとめたものです。

(文責：調査研究部 研究員 阿部山 徹)

(参考資料)

- ・「第14回通常総代会議案書」JAいしのまき
- ・JAいしのまき ウェブサイト (<http://www.ja-ishinomaki.or.jp/> 2015. 7. 30 閲覧)
- ・石巻市ウェブサイト (<http://www.city.ishinomaki.lg.jp/> 2015. 7. 30 閲覧)
- ・東松島市ウェブサイト (<http://www.city.higashimatsushima.miyagi.jp/> 2015. 7. 30 閲覧)
- ・女川町ウェブサイト (<http://www.town.onagawa.miyagi.jp/> 2015. 7. 30 閲覧)
- ・アグリードなるせウェブサイト (<http://agriead.jp/news/info/10.html> 2015. 7. 30 閲覧)
- ・東日本大震災宮城の記録 宮城県ウェブサイト (<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kikitaisaku/> 2015. 7. 30 閲覧)
- ・第3回国連世界防災会議仙台開催実行委員会ウェブサイト (<http://www.bosai-sen dai.jp/about.html> 2015. 7. 30 閲覧)